

3.1.7 「SSH 神戸学」の推進

担当：：梅村 佳史

実施時期：令和5年4月～令和6年3月

場 所：各学系活動教室

対象生徒：本校全生徒 1,059 名

1. 研究開発の経緯と目的

本校は2年次より、社会科学系(3年次)、国際人文系(3年次)、人文社会系(1,2年次)、総合科学系、情報科学系、ビジネス系、人間科学系生活福祉コース(以下、生活福祉コース)、人間科学系スポーツコース(以下、スポーツコース)、芸術系音楽コース(以下、音楽コース)、芸術系美術デザインコース(以下、美術デザインコース)に分かれ、各系の特色を活かした学びを行っている。本校では「神戸学」において、生活の中で役立つことや地元・地域との関わりなど各系・コースで様々なテーマを設定して課題研究活動(探究活動)を行っている。各系で研究班を作り、班の中で1つのテーマを深く掘り下げる探究活動において、本校が設定した育むべき6つの力を育成している。3年間を通して系統的に探究活動を進めるために、1年次後期からテーマ設定や探究活動の進め方を体験的に学び、2年次では「神戸学」として自分たちが設定したテーマについて探究活動を行い、3年次では探究活動での学びを系活動や進路実現に活かしている。



2. 仮説

本事業により、育むことができる力は以下の通りである。

	A:課題設定力	B:企画協働力	C:論理考察力	D:自己学習力	E:表現理解力	F:知能・技能
仮説	○	○	○	○	○	○

テーマ設定を通して課題設定力を、探究活動の中で他の5つの力を向上させることが期待できる。

3. 研究内容・方法

「神戸学」に関連した活動を、各年次で以下の内容で実施した。

(1) 1年次生の活動(進路プランニング)

前期は2年次からの系・コース選択の準備として、現時点の学びと将来の仕事(進路)との関わりについて学んだ。夏休みは、「夏の進路プランニング」として、多くの地元の企業の方を本校に招き、仕事内容や企業のSDGsへの取組についての講義を受け、それを基にポスターを作成し発表を行った。後期は「プレ神戸学」として2年次に探究活動を行う上で必要な探究サイクルの要素を学びながら、個人で探究活動を行い、成果をポスターにまとめ、「プレ神戸学発表会」において発表を行った。

(2) 2年次の活動(神戸学)

1年次の経験を基に班を作り、自分たちでテーマを設定し、探究サイクルをまわすことを念頭に探究活動を1年かけて行った。11月には全ての系・コースの班を19のグループに分けて「神戸学中間発表会」を行った。発表会では大学の先生を招いて、各発表に対してアドバイスをしていただき、そのアドバイスを基にその後の探究活動を行った。2月に「中間発表会」で招いた先生方を審査員として招き、代表生徒はスライド発表、全生徒はポスター発表の形式で「神戸学全体発表会」を行った。

また、探究活動に加え、「神戸学」では各系・コースの特色を生かした次のような系活動を行った。

① 大学訪問

各系・コースの特色につながる学部(例：情報科学系 → 情報学部)のある大学へ行き、模擬講義を体験した。その中で、各系・コースでの学びが今後どのように社会で役立っていくかを学んだ。

② 大学や企業による特別授業

総合科学系では、大阪工業大学等の大学教授や(株)住友ファーマの社員の方を招いて特別授業を本校で開催した。同様に生活福祉コースでは、(株)キューピーの社員の方を招いてユニバーサルデザインに関する特別授業を開催した。

③ フィールドワーク

総合科学系では、SDGs のカードゲームを通して持続可能な社会を考えたり、探究活動について大学生との意見交換会を開催したりした。人文社会系では、湊川隧道の見学や課題研究のテーマに分かれた調査活動、職業体験を行った。

(3) 3年次の活動(神戸学)

スポーツコースはインラインスケートの体験講習を、美術コースは美術館で芸術鑑賞を、総合科学系は人と防災未来センターにて防災学習を行った。生活福祉コースは2年次の「神戸学」のテーマを基に、介護や福祉の専門性を深めた探究活動を行った。

4.検証

成果を検証するため、6つの力のうちのどれが向上したかを問う調査を実施した。年次ごとに、6月と12月における育むべき6つの力について5段階で評価を行った平均値は以下の通りである。

	A:課題設定力	B:企画協働力	C:論理考察力	D:自己学習力	E:表現理解力	F:知識・技能
3年次(349名)						
平均(6月)	3.7	3.8	3.3	3.5	3.2	3.0
平均(12月)	3.7	3.8	3.5	3.5	3.3	3.2
2年次(349名)						
平均(6月)	3.5	3.6	3.2	3.2	3.1	3.0
平均(12月)	3.4	3.5	3.2	3.3	3.0	3.0
1年次(361名)						
平均(6月)	3.6	3.8	3.2	3.4	3.1	3.0
平均(12月)	3.5	3.7	3.3	3.4	3.1	3.0

1, 2年次では数値が減少した項目があり、特に課題設定力、企画協働力に関しては再検討を行う必要がある。課題設定力については、課題設定の時間が十分でなかったことが課題であり、学習計画の見直しが必要であると考えられる。企画協働力については、コロナ禍における小・中学校での集団活動の減少により、協働が不慣れで達成感が得られなかったことが要因と考えられる。ディスカッションなど協働する活動を意図的に増やし、達成感をえられるように計画する必要がある。

3年次は3項目で増加が見られた。これはそれまでの探究活動で培った力を、系活動だけでなく進路実現に向けての活動に転用できたためと思われる。このことは培った6つの力が生徒の様々な活動の中で応用でき、その中でさらに力を伸長する効果を生むことを示していると考えられる。